亀岡市域の歴史は、水害との戦いの歴史である。

戦後においても、疲弊した国土に、毎年のように風水害が襲い、昭和 20 年、24 年、25 年、26 年、29 年、32 年、35 年と桂川（保津川）沿川の地域住民の生命、財産を奪ってきたことから、沿川住民として、「亀岡市上桂川逆流防止同盟」を結成し、京都府知事に対し、「保津峡の開削」を要望するべく府庁舎に座り込みを決行した。

その後においても風水害は毎年のように地域住民を襲い続けてきた。

昭和 46 年に当時の建設省より、「淀川工事実施基本計画」が策定され、桂川については、「日吉ダムを含む上流ダム群と保津峡狭窄部上流河道改修」により河川の氾濫をなくすことで整備を進めることになり、平成 10 年には、上流「日吉ダム」が完成した。

「河道改修」については、昭和 57 年出水対応の築堤工事に平成 8 年から京都府において着手された。

「亀岡市桂川逆流防止同盟」としては、結成以来河川管理者に対し要望活動を続けてきたが、平成元年から「亀岡市桂川改修促進期成同盟」と名称を変更し現在まで京都府管理区間のみならず近畿整備局及び淀川工事事務所へ要請・要望を行うなど上下流区別なく改修促進活動を続けている。

淀川の治水事業は、上流、下流域がそれぞれバランスのとれた改修計画により行われてきたものであり、下流への流出量をおさえるため、上流沿川地域住民は、自らの血を流し協力してきた。

最近になって、「淀川水系流域委員会淀川部会」において、桂川の治水計画が、木津川上流狭窄部岩倉峡と同じような、「遊水池」による下流域への流出量を抑える事が適当であるかのような議論がされていると聞き及んでいる。

我々としては、本来桂川の治水計画には、「遊水池」計画はなく、木津川流域と同種のものと考えられていることに対し非常に不満である。

また、このような下流大都市域の負担を一方的に上流域に押しつけるような議論が、上流の意見なくして行われていることは、決して許されるものではない。

このような議論の場において、発言の機会が制限されることに危機感をもっている。

亀岡市桂川改修促進期成同盟としても機会あるごとに上下流域の河川整備に協力するとともに、過去、何十年、何百年水害と治水の歴史、「痛み」を風化させることなく伝えていく努力をしていきたいと考えている。

今後は、上流沿川住民の意見を聞く場を設定されるようお願いする。